

(財)日本ユニセフ協会の2003年度事業報告(2003年4月1日~2004年3月31日)

UNICEF in Japan

日本ユニセフ協会 2003年度の活動

1955年6月9日に設立された財団法人日本ユニセフ協会は、先進国においてユニセフを代表する世界37カ国にある国内委員会の一つです。1990年代に入ってからは、「子どもの権利条約」に定める「子どもの権利」の実現を目的とするアドボカシー活動（政策提言活動）にも積極的に取り組んでいます。また募金活動でも新たな方法を積極的に導入。ユニセフ募金は着実に成長し、2003年度のユニセフへの拠出金は115億円となりました。その結果、(財)日本ユニセフ協会の拠出額は、1999年度より5年連続で世界の民間部門中、最高額という実績を残すことができました。

(財)日本ユニセフ協会の2003年度収支報告

(2003年4月1日~2004年3月31日)

収入の部

(単位:千円)

科 目	金 額	
補助金等収入		11,113
基本財産運用収入		14
会費収入		71,151
寄付金収入	10,405	13,957,331
寄付金収入	13,946,925	
募金収入		1,376,480
グリーティングカード募金収入		27,445
本部補助金収入*1		59,003
雑収入		120,498
その他の収入		
特定預金取崩収入	120,498	
小 計		15,623,038
前期繰り返支差額		768,773
合 計		16,391,812

注)千円未満切り捨てのため科目金額と合計金額は一致しません。

支出の部

(単位:千円)

科 目	金 額	
ユニセフ本部支出		13,166,666
ユニセフ本部拠出金 *2	11,500,000	
ユニセフ本部業務分担金 *3	1,666,666	
事業費		1,761,637
国際協力研修事業費	11,947	
啓発宣伝事業費	326,461	
啓発宣伝支部強化費	48,586	
募金活動事業費	1,146,356	
グリーティングカード募金事業費	228,285	
管理費		373,811
その他の支出		219,189
特定預金支出		
小 計		15,521,305
次期繰り返支差額		870,506
合 計		16,391,812

注)千円未満切り捨てのため科目金額と合計金額は一致しません。

* 1 ユニセフ本部からの特定事業に対する補助金

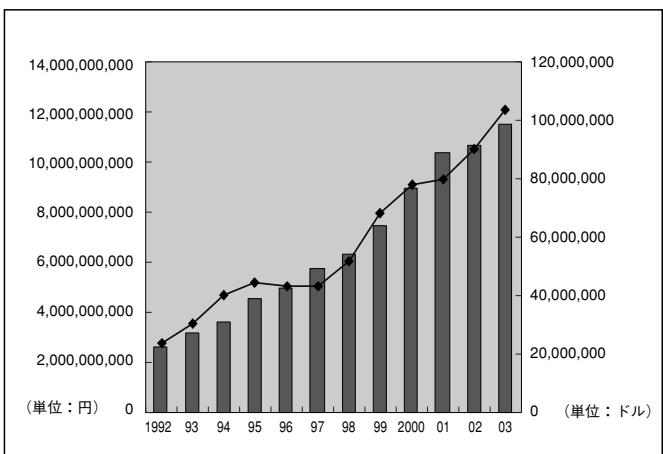
* 2 ユニセフ活動資金に充当されるもの

* 3 ユニセフ本部が行う特定事業に対する分担金

上記は、監事及び公認会計士(小見山満、窪川秀一、川瀬一雄)の監査を受けた決算書の要約です。

日本ユニセフ協会の拠出額の推移(1992-2003年)

■ 円決算拠出額(円)
— ドル建推計額(米ドル)



年度	円決算拠出額	ドル建推計額	決算レート
1992	2,654,335,508	23,699,400	112
1993	3,131,358,164	30,401,500	103
1994	3,603,854,841	40,042,800	90
1995	4,514,159,422	44,256,465	102
1996	5,000,599,856	43,483,477	115
1997	5,754,949,000	43,542,021	132
1998	6,350,000,000	51,626,000	123
1999	7,442,000,000	68,275,229	109
2000	8,922,000,000	77,893,465	115
2001	10,351,000,000	80,088,280	129
2002	10,687,500,000	89,862,387	119
2003	11,500,000,000	103,466,125	111

※詳細は日本ユニセフ協会のホームページ(<http://www.unicef.or.jp>)をご覧下さい。また、冊子版をご希望の方は、ご請求ください。1部まで郵送料ともに無料です。

お問い合わせ先: TEL 03-5789-2016 広報室

【アドボカシー活動】

国連子ども特別総会

国連子ども特別総会(2002年5月開催)で採択された最終文書、「子どもに相応しい世界」では、各國政府が2003年までに国内行動計画を策定することを定めています。この“国内行動計画”に子どもたちの意見を反映すべく、「ユニセフ子どもセミナー2003」を開催しました。

子どもの人身売買の根絶を目指すキャンペーン

「子どもの売買、子ども買春および子どもボルノに関する子どもの権利条約の選択議定書」の早期批准に必要な国内法整備の実現を目指して、署名キャンペーンを展開。国会議員に対する働きかけを行いました。また「子どもの人身売買」をテーマとする特別企画展を実施するとともに、公開セミナーを開催しました。

子どもの商業的性的搾取の根絶を目指すキャンペーン

2003年6月、本件に関する公開セミナーを開催しました。また「児童買春、児童ボルノに係る行為等の処罰及び児童の保護等に関する法律」改正案の早期成立を求める国会請願の手続きを取りました。

国際人材養成プログラム

海外インターンのユニセフ現地事務所派遣事業は8名の派遣者を決定、2004年度に派遣予定です。また、子ども支援NGOの国内外研修支援事業(6団体、21名)、及び第3回国際協力講座(15回)を前年度に引き続き実施しました。

【広報活動】

ユニセフ・アフリカ・ミーティング

アフリカ各国で働くユニセフ日本人スタッフ13名をスピーカーとして招き、「ユニセフ・アフリカ・ミーティング～今、アフリカで起きていること」を開催。若い人を中心約1,500名が参加しました。

講演会・報告会

アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使、ピュリッサー賞受賞作家アリス・ウォーカー氏がユニセフハウスにおいて講演を行いました。またイラクやアフガニスタン、レソト、コソボのユニセフ現地事務所の代表やスタッフによる報告会を開催し、報道機関や支援団体へのアピールを行いました。

セミナー

教育現場でのユニセフ活動普及のため、教職員を対象としたセミナーや児童・生徒対象のリーダー講座・ワークショップ、高速インターネットを活用した遠隔授業等を実施しました。

スタディツアー

開発途上国の子どもたちの状況と問題、ユニセフの支援活動の実際を見る事で理解を深め、組織や地域、教育現場で協力活動を促進することを目的としたスタディツアーを企画し、東ティモール、ミャンマー、カンボジアの3カ国へ派遣しました。

ユニセフパークプロジェクト

国土交通省・日本公園緑地協会とともに子ども参加と国際交流による新しい公園づくりをめざす「ユニセフパークプロジェクト」では、第1回国際子どもワークキャンプを開催しました。

多様なキャンペーン事業

写真展や児童画展、絵本展の展示セットを製作、各地で展示会を開催しました。全国的な募金活動「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」や、学校キャラバン(近畿、中部・北陸地区)を実施しました。

新しい地域組織の誕生

2003年は福島県支部が誕生しました。千葉県支部設立発起人会が発足、佐賀県でも県支部設立準備が進められました。

【募金活動】

2003年度の(財)日本ユニセフ協会に寄せられた募金総額(カード&ギフト募金を含む)は、前年比12億8,040万円増加の153億2,340万円となり、過去最高額となりました。

個人からの協力

ダイレクトメール、マンスリー・サポート・プログラム(月々定額の寄付)、インターネット募金、レガシープログラム(遺産・香典の寄付)など個人からの協力は、9億5,471万円増加の108億6,847万円となり、初めて100億円を突破しました。

学校からの協力

参加校17,782校、総額約3億9,535万円の協力を得ました。

企業・団体・報道機関からの協力

多様な団体、企業、報道機関などがイラク緊急支援活動をはじめ、様々な協力活動を行ってくださいました結果、25億6,453万円のご協力をいただきました。

ユニセフ・カード&ギフトを通じての協力

昨今の個人消費の低迷が影響し、本年度は前年微増の13億7,648万円の協力をいただきました。

緊急支援アピールと復興支援への協力

戦争や自然災害など一刻も早い支援が必要となる国や地域の緊急支援アピールを行っています。2003年はアフガニスタンやイラクの復興状況の報告とともに緊急募金が続けられた他、年末にイランで地震が発生した際も、ホームページなどを通じ、即座に緊急アピールを行いました。現地の子どもの情報を発信するとともに募金活動も開始しました。

UNICEF in the World:ユニセフの世界での活動

【ユニセフの活動】

現在158の国と地域で、子どものための活動を実施しています。本部はニューヨークにあります。デンマークのコペンハーゲンには物資集積センターがあり、緊急時にはどこへでも48時間以内に支援物資を届けます。また、日本を含む先進工業国37カ国にはユニセフ国内委員会が置かれ、募金活動、ユニセフの事業についての広報活動、アドボカシー活動を行っています。

【ユニセフの財政】

ユニセフの財政は、各國政府の任意協力と民間の募金から成り立っています。ユニセフの2003年の総収入は16億8,800万米ドル。このうち政府協力が11億3,600万米ドル(67%)、民間協力が5億1,500万米ドル(31%)、その他から3,700万米ドル(2%)となっています。